

重要：このクイックリファレンスガイド (QRG) では、内視鏡の準備と点検に必要な手順の簡単な概要を説明します。
詳しい手順については、取扱説明書 (操作編) を参照してください。

- 警告

点検で故障が見つかった場合は、使用を中止して営業所またはお買い上げの代理店のサービス窓口にお問い合わせください。
- 注意

すべての手順を実行する必要がありますが、赤枠で囲まれた手順が非常に重要です。

参照：
第 4 章

A. 関連機器を準備する

滅菌水

8 分目の目印

a 送水タンクの 8 分目くらいまで送気送水用の滅菌水を入れます。

b 送水タンクをカートまたは光源装置に取り付けます。

新品

リプロセス済み

内視鏡、送気送水ボタン、吸引ボタン、鉗子栓、先端キャップを準備し、運搬します。

その他の関連機器は、関連機器の取扱説明書に従って準備します。

B. 内視鏡と光源装置および関連機器を接続する

※ VP-7000/BL-7000 使用時の例

a スコープコネクタに水分や異物がないことを確認します。

b スコープコネクタを光源装置に接続します。

c 送水タンクのコネクタを取り付けます。

d 吸引チューブを取り付けます。

C. ボタンを取り付ける

D. 鉗子栓を点検し、取り付ける

送気送水ボタンと吸引ボタンに異常がないことを確認し、取り付けます。

スリット

丸穴

鉗子栓

a スリットと丸穴に損傷がないことを確認します。

b フタを閉じます。

c 内視鏡の鉗子口に鉗子栓を取り付けます。

警告

- 鉗子栓は、使用する前にリプロセスを行ってください。リプロセスが不適切な鉗子栓を使用した場合、感染の原因となるおそれがあります。
- 鉗子栓は、再使用禁止の製品です。使用後の鉗子栓は廃棄してください。廃棄せず再使用すると、感染の原因となるおそれがあります。

E. 先端部を点検する

F. 軟性部を点検する

先端部、わん曲部 (両端の樹脂含む) に損傷や異物がないことを確認します。

a 目視確認

b 曲げ確認

a 挿入部に異常がないことを目視で確認します。

b 位置を数回ずらしながら、軟性部を曲げて直径 200mm の半円をつくり、十分に曲がることを確認します。

200mm

0 100mm 200mm

重要：このクイックリファレンスガイド（QRG）では、内視鏡の準備と点検に必要な手順の簡単な概要を説明します。
詳しい手順については、取扱説明書（操作編）を参照してください。

参照：
第 4 章

G. わん曲機構と鉗子起立機構の点検

わん曲部をさまざまな方向に動かしてチェックします。

わん曲部の「ロック」と「フリー」の機能をチェックします。

ロックされている

鉗子起立台を動かして動きをチェックします。

H. 先端キャップを取り付ける

内視鏡先端部の溝が完全に覆われるまで、先端キャップを被せます。

- 内視鏡先端部の溝に先端キャップの突起を指ですべてはめ込みます。
- 先端キャップをまっすぐ引き、外れないことを確認します。

I. 内視鏡の機能を点検する

※ VP-7000/BL-7000 使用時の例

光源装置の電源を入れます。

プロセッサの電源を入れます。

送水機能を点検する

- 送気送水ボタンを押す
- 滅菌水
- 送気送水ボタンを押します。
- 送気送水ノズルから水が出ることを確認します。

止まる

- 送気送水ボタンから指を離します。
- 送水が止まることを確認します。

送気機能を点検する

- 送気送水ボタンの穴を塞ぐ
- 送気送水ボタンを押します。
- 送気送水ノズルから空気が出ることを確認します。

止まる

- 送気送水ボタンの穴から指を離します。
- 送気が止まることを確認します。

I. 内視鏡の機能を点検する（続き）

吸引機能を点検する

- 吸引ボタンを押す
- 吸引ボタンを押します。
- 水が吸引されることを確認します。

止まる

- 吸引ボタンから指を離します。
- 吸引が止まることを確認します。

光源装置のライトを点けます。

対物レンズを手のひらに向けてモニターで画像を確認します。

⚠ 注意

- 吸引圧は、40 ～ 53kPa に設定してください。吸引圧が高すぎると、内視鏡が吸着して、粘膜が損傷するおそれがあります。
- レンズを点検する時は、光源のライトを消してください。ライトガイドの光を直視すると、目の障害の原因となるおそれがあります。